

グラフィア

オスラー病に対する超音波凝固治療

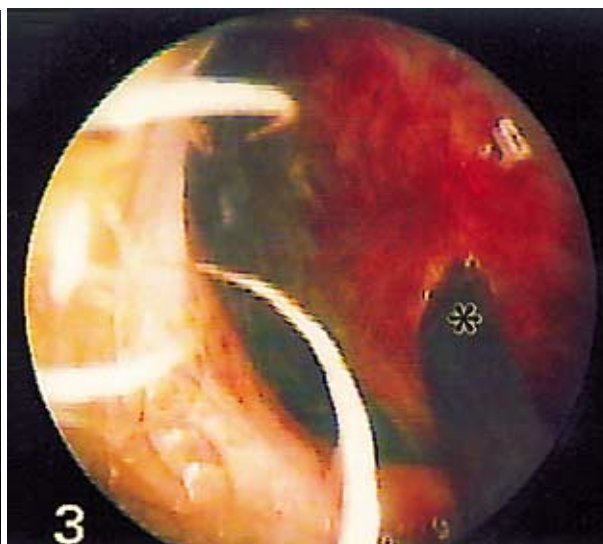
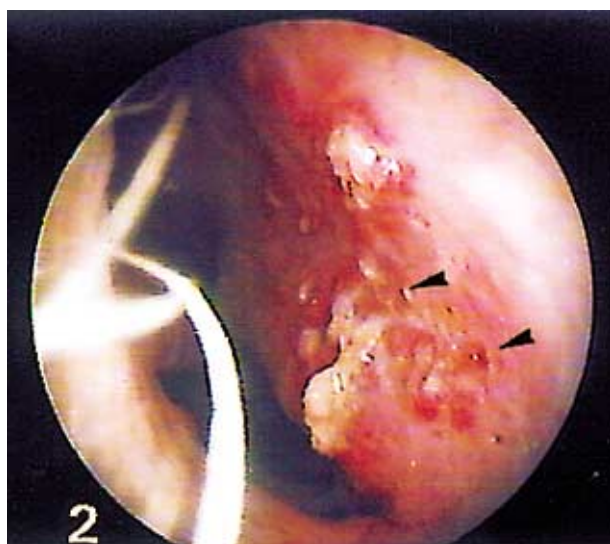
Ultrasonic Coagulation in Osler Disease: Hereditary Hemorrhagic Telangiectasia

大久保公裕 八木 聡明

日本医科大学耳鼻咽喉科学教室

Kimihiro Okubo and Toshiaki Yagi

Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School



- 図1 消化管粘膜の毛細血管拡張とともに認められるのが、口腔粘膜の毛細血管拡張であるが、この症例は舌に点状の毛細血管の拡張が認められる。
- 図2 凝固前の鼻粘膜はアドレナリンにて収縮しているため、蒼白に見えるが、右鼻中隔に点状の出血斑と粘膜の剥奪が観察される（矢頭は粘膜の毛細血管拡張を示す）。外側からの白い線は鼻毛である（図2も同様）。
- 図3 ハーモニクスカルペル™のブレードを当てると鼻中隔粘膜は出血をはじめますが凝固は進められる。画面が白くなるが、これは超音波凝固の際に見られる発熱を抑えるための霧状の水である（*はブレードを示す）。

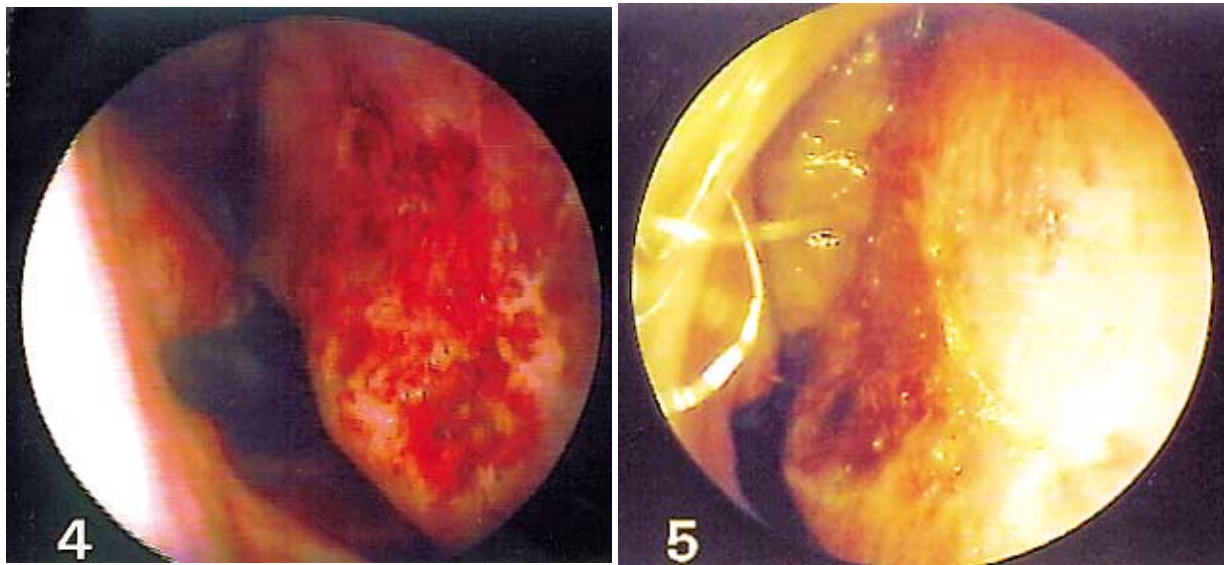


図4 術直後の右鼻中隔粘膜は全体的に発赤しているものの、凝固粘膜周囲の白色から淡黄色のコアギュラムの付着が認められる。

図5 術後1週間目の右鼻中隔粘膜は透明から淡黄色のコアギュラムが付着している。このため出血は見られない。点状の毛細血管拡張も減少している。

解説：オスラー病 (Osler-Weber-Rendu 病) は遺伝性出血性血管拡張症とも呼ばれ、常染色体優性遺伝を示す。頻回の鼻出血、消化管粘膜の毛細血管拡張をきたす疾患であるが、特にその鼻出血は止血困難で鼻腔粘膜に植皮を行う場合があるほどである。この鼻出血に対して新しいアプローチとして超音波凝固切開装置 (ハーモニック スカルペル™) を使用した内視鏡下止血術を行った。図2以降のグラフはすべて右鼻腔内、特に出血の多かった鼻中隔を示している。実際には左鼻腔も同様に施行した。

文 献

1. 大久保公裕, 八木聡明: オスラー病に対する超音波凝固切開装置の使用経験. 耳喉頭頸 1999; 71: 955-958.